



いづみ 泉 議員
ゆみ 愉美 議員

な書道をは
か習うってみたい
うこの頃

問 不登校、いじめをゼロにするには

教育長 チーム学校として取り組む

不登校への対応

全国的に増えている不登校は、予兆の把握と早期の対応が大切である。一人一人に寄り添った支援計画は作成しているか。

教育長 個票を作成し、学校全体で共有することとで支援する体制だ。

不登校時の学習支援体制は。

学級以外の居場所

友人との関係が原因である場合などは、教室以外の場なら登校できるケースもある。校

内の別室の利用実態は。教育長 各学校では保健室や本人が不安を感じない居場所の確保に努めることとしており、過去には利用の実態がある。



いじめの把握

年間2回のいじめアンケートで認定した事案はどのような種類か。また、公表しているか。

教育長 ひやかashi、からかい、悪口、たたく、わざとぶつかるなどが多く、結果は学校だよりなどで公表している。

学校での対応

いじめが発覚した時はすくに対処し解決しているか。

教育長 積極的認知をし、聞き取り、解決に向けて対応に当たっている。

アンケートだけでなく、日頃の相談体制は。

教育長 学級担任、学校管理職はもちろん、教育専門員やスクールカウンセラーなどが本人や保護者と連絡を取り合えるよう相談体制を整え対応している。

児童センターでのトラブルは

放課後を過ごす児童センターではいじめの調査はしているか。また、トラブルは起きていないか。

教育長 いじめの調査はしていない。トラブルは多々あるが、指導員が仲介に入り仲直りできている。

深刻な状況があれば学校と連携を図る。

心のケア対応

いじめを受けた子どもへの心のケアはどのように対応しているか。

教育長 1人1台タブレットがあるので、メッセージを送るボックスを設けて全教職員でケア対応できるようにしている。

他にも親と子のための教育相談や電話相談などで門戸を広げている。

不登校、いじめをゼロにするために

一件一件を深刻な問題と捉えて、現状より一歩進めなければ苦しむ子どもを救えない。今後どのように町の子どもを守っていくのか。

教育長 チーム学校として、さまざまな機関と連携して、その都度ケースに合った対応に取り組んでいく。



泉議員の一般質問を視聴できます